

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 1 年目)

1. 研究課題

前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会

Studies on the cultures and societies in pre Modern Inner Asia and its adjacent areas

2. 研究代表者氏名

稲葉穰

Inaba, Minoru

3. 研究期間

2019 年 04 月 - 2022 年 03 月 (1 年度目)

4. 研究目的

いわゆる古代文明発祥の地であり、伝統的に独自の歴史文化を形成してきたとみなされる西アジア、南アジア、東アジアは地理的には海上と内陸アジア(中央アジア、中央ユーラシアとほぼ同義で用いる)の陸上ルートを通じて様々な形で接触してきた。その接触の場を提供し、時にこれら大陸縁辺の世界に多大な影響をおよぼした内陸アジア世界もまたそれらの地域と同等に一つの文化世界、歴史世界であるかのように措定されてきたが、そのイメージは砂漠とステップと遊牧部族が支配的な空間、というものであった。しかし 20 世紀末にソヴィエト連邦が崩壊し、パミール以西の内陸アジアが世界の研究者に対して門戸を開き、また東トルキスタンにおいて中国の非常に活発な研究が進んだことにより、当該地域を研究するための材料や視点は漸次増大してきている。このような状況を踏まえ、今後進められねばならないのは、上述のようにステレオタイプの理解されてきた内陸アジア内部の地理的な *diversity* や、社会結合のあり方、都市に関するより詳細な研究である。本研究班は古代から近代に到る内陸アジアとその隣接地域に関する様々な社会研究、文化研究のケーススタディを積み重ねることで、多様な内陸アジア像を描き出し、ステレオタイプの理解の克服を目指す。

West, South, and East Asia, which have been traditionally assumed as "Civilizational Centers", have contacted and connected each other through the maritime and inland routes. Inner Asia (almost synonymous with Central Asia/ Central Eurasia), which served as a contacting place for those areas, and sometimes gave impacts on those areas, has been also assumed as an independent historico-cultural world. The popular images, however, on this area are still the deserts and

steppes where monolithic, nomadic tribal society and culture have been predominant. Since the last two decades of the 20th century, the materials available for the further research on the history of the area in question have been remarkably increased. Based on such materials, the issues concerning the diversities of societies and cultures within Inner Asia has attracted more attention than ever. The purpose of this research project is to depict colorful figures of the history and culture of Inner Asia by accumulating examples of studies on societies, cultural interactions, etc. within Inner Asia from the ancient to the early Modern period.

5. 本年度の研究実施状況

本年度の研究会は、ペルシア語写本会読と研究報告の二本立てで進めた。前者は近年イランにおいて発見された首尾を欠く手写本で、12世紀に'Abd al-Rahman al-Famiの手で書かれた『ヘラート史』だと考えられている。同書はイスラム時代初期のイラン東方に関する独自の情報を記録しており、会読によって従来知られていなかったいくつかの点が明らかになると期待されている。一方研究報告については、正規の研究班員に加え、海外からのゲストを招待しての研究報告会を何度か開催し、最新の内陸アジア研究事情に関わる情報を共有した。

6. 研究成果の概要

なし

7. 本年度の研究実施内容

2019-04-26 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 イスラーム新思想の東伝—中国ムスリム学者、馬徳新の聖者崇敬批判 発表者 中西竜也

2019-05-24 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 Fami『ヘラート史』会読 発表者 稲葉穰

2019-06-14 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 Fami『ヘラート史』会読 発表者 稲葉穰

2019-06-28 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 The Buddhist Caves at Kanheri in Western Deccan 発表者 Pia Brancaccio Drexel University

2019-07-12 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 ハーフイズ・アブルーの「チャガタイ・ハン紀」—校訂の過程でわかったこと 発表者 川本正知 奈良大学

2019-07-26 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 Turanians of Asia: Myths and the Missing Race 発表者 Vimalin Rujivacharakul Delaware University

2019-09-27 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 Fami『ヘラート史』会読 発表者 杉山雅樹 京都外国語大学

2019-10-11 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 Fami『ヘラート史』会読 発表

- 者 杉山雅樹 京都外国語大学
- 2019-11-08 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 Encircled by Mountains, Connected by Dunes: Networks of Buddhist Monasteries in Central Asia 発表者 Erika Forte Austrian Academy of Sciences
- 2019-12-13 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 At the Fulcrum of Power: Transnational Trade and Diplomacy in the Shahi Period, 7th-10th Centuries 発表者 Deborah Klimburg-Salter University of Vienna
- 2020-01-24 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会 Fami『ヘラート史』会読 発表者 杉山雅樹 京都外国語大学

8. 共同研究会に関連した公表実績

- 2019年7月26日 公開講演会 講演者 Vimalin Rujivacharakul (デラウェア大学) 演題 Turanians of Asia: Myths and the Missing Race
- 2019年7月27日 公開講演会 講演者 Pia Brancaccio (ドレクセル大学/京都大学人文科学研究所) 演題 The Development of Colossal Images within the Buddhist Tradition of South Asia
- 2020年2月21日 公開講演会 Rediscovering the Iranian Antiquity 講演者 Carlo Cereti (ローマ大学) 演題 The Paikuli Project: Researches on Narseh's Monument and Inscription in Iraqi Kurdistan
- 講演者 Yousef Moradi (ロンドン大学) 演題 Takht-e Soleyman in the Light of Archaeological Excavations: Report of Seasons 2002-2008

9. 研究班員

所内

船山徹、稲本泰生、中西竜也、宮本亮一

学内

檜山智美(白眉センター)、井谷鋼造(大学院文学研究科)、吉田豊(文学研究科)、帯谷知可(東南アジア地域研究研究所)、内記理(文学研究科)、角田哲朗(文学研究科)、今松泰(アジア・アフリカ地域研究研究科)

学外

大津谷馨(リエージュ大学)、川本正知(奈良大学)、和田郁子(岡山大学)、入澤崇(龍谷大学)、小野浩(京都橘大学)、真下裕之(神戸大学)、伊藤隆郎(神戸大学)、岩井俊平(龍谷大学)、井上陽(相愛大学)、影山悦子(奈良文化財研究所)、上枝いづみ(金沢大学)、杉山雅樹(京都外国語大学)、田中悠子(ロンドン大学)、Erika Forte (Austrian Academy of Sciences)、小倉智史(東京外国語大学)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	3 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	22 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (0)
学内	1	7 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	40 (0)	0 (0)	10 (0)	0 (0)
国立大学	3	4 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	3	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	33 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	1	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	2	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	11	20 (6)	1 (1)	2 (1)	2 (0)	125 (20)	2 (2)	12 (2)	10 (0)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	12(10)
国際学術誌に掲載された論文数	5(4)

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合

掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
Journal of Persianate Studies	1	In this corner of the entangled cosmopolises	Ogura, Satoshi

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

引き続き、伝 Fami 作『ヘラート史』写本の会読を進め、日本語訳中の完成を目指す。また、前近代内陸アジアの文化接触、文化変容に関する班員の研究報告およびゲストスピーカーによる講演を企画し、内陸アジア社会の歴史的な理解をすすめる。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果として『ヘラート史』の日本語訳注を作成し、ウェブ出版の形で公表したいと考えている。

